

森永乳業の育児ニュース『エンゼル 110 番レポート第 66 号』発行

「今、大切にしたいもの」

———100人のお母さんに聞きました———

森永乳業は、時代とともに変わりつつある母親像の理解に役立つことを願い、1993年4月から「エンゼル 110 番レポート」を発行しております。この「エンゼル 110 番レポート」は、育児相談窓口「エンゼル 110 番※」への相談内容から、毎回育児に関する傾向についてまとめています。

※「エンゼル 110 番」は、「子育て奮闘中のママたちのために何かお役に立てることは…」と考え、1975年5月に開設した無料の育児相談窓口です。

昨年3月に起きた東日本大震災は、私たちの生活や考え方に大きな影響を与えました。地域との親交を深めることの大切さに改めて気づき、人とのつながりについて考え直した人が多かったと聞きます。生死にかかわるような出来事に直面したとき、人はだれでも、自分の価値観や生き方を見つめなおさざるを得ないのでしょうか。直接被災したかどうかにかかわらず、考え方や生活の仕方などに、何かしら自分の中で変化を感じたり再認識した人も多いのではないかと思います。

そこで、今回のエンゼル 110 番レポートでは、お母さんたちが「今、大切にしたいもの」は何か、また、それが「震災の前後で変わったかどうか」について聞いてみました。

【主なアンケート結果】

- 「今、大切にしたいもの」は家族・子ども・友達など「人や人間関係」。
- 大切なものが「変わった」人と「変わらない」人は、ほぼ同数。
- 防災グッズ・貯金・写真などは震災をきっかけに「大切なもの」と思うようになっている。
- 水・食べ物・自然・あたりまえの日常など、普段、気にせずにいるものの大切さに気づいた人も多い。

本件・バックナンバーに関するお問い合わせ先

<報道関係者からのお問い合わせ窓口>

森永乳業 広報部 杉内・村上

Tel.03-3798-0126

<お客さまからのお問い合わせ窓口>

妊娠・育児相談「森永乳業エンゼル 110 番」 Tel 東京 03-3405-0110、大阪 06-6365-0110

月～土曜日(日曜、祝日除く)、10～14時

エンゼル 110 番ホームページ <http://www.angel110.jp/>

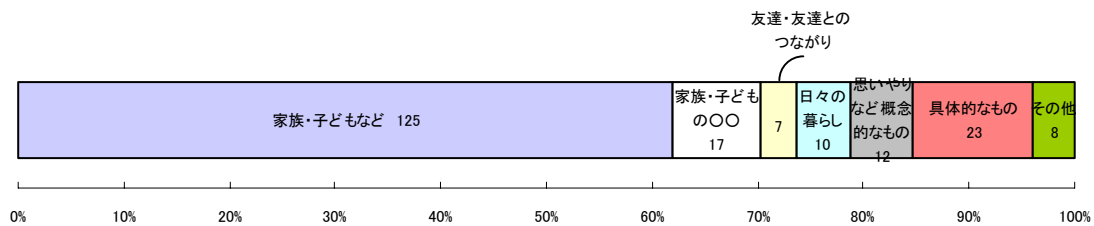
今回のテーマ「今、大切にしたいもの」

－100 人のママに聞きました－

大切にしたいものは、家族と子ども

今、大切にしたいものについて、自由に 2 つまで答えてもらいました。(2 つ以上の回答あり)「大切なもの」としてあげられたものは全部で 202 票でした。そのうち、家族、子ども、友だちなど「人や人間関係」に関するものが最も多く 149 票で約 70%でした。「人や人間関係」に関するものの中では、「家族・子どもなど」が 125 票、家族の時間・家族の健康・子どもの気持ち、子どもの安全などの「家族・子どもの〇〇」が 17 票、「友達、友達とのつながり」が 7 票でした。

次に、楽しく暮らすことなど「日々の暮らし」に関するものが 10 票、信頼、絆など「思いやりなどの概念的なもの」が 12 票、お金、水などの「具体的なもの」は 23 票でした。その他は 8 票でした。



「日々の暮らし」では、楽しく暮らすこと・普通の幸せや当たり前の気持ち・日々の日常を大切にする・今を大事に生きること・普通の暮らしなどがあがり、また、「具体的なもの」としては、お金、貯蓄、水、食品・食事、写真、災害への備え、節約などがあげられていました。

「その他」として、ストレスをためない、健康、安心して暮らせる環境、思い出などがあがりました。

震災の前後で「大切なもの」が変わった人・変わらなかった人は半々

「大切なもの」が震災の前後で変わったかどうかを聞いたところ、「変わった」が 52 票、「変わらない」が 23 票、「変わらないが強くなった、再確認した」が 28 票、「その他」が 7 票と、半々という結果でした。(複数回答あり)

しかし「変わった」「変わらない」にかかわらず、「大切なもの」は「人や人間関係」に関する回答が多くあげられました。

一方で、「大切なもの」として「具体的なもの」「日々の暮らし」をあげた人のほとんど

は、震災の前後で「変わった」と答えていました。「その他」は震災というより、「子どもが生まれて大切なものが変わった」という答えでした。

*「変わった・変わらない」は、必ずしも「大切なもの」1つずつについて答えているわけではないため、Q1とQ2の総数は一致していません。

ママたちの声

「大切にしたいもの」へのお母さんたちの思いをご紹介します

「今、大切にしたいもの」①変わらない、②変わった、③変わらないが強くなった、④その他

ママたちの声（住居地、ママの年齢、子どもの年齢）の順に示しています。

「家族、信頼」①

妊娠中外出していて震災にあった。ホテルのロビーに避難したが、席を譲るなど、周りの人が親切にしてくれた。思いやりって大事だと感じた。あんな状況でも他人に優しくできなくてすごいと思った。（東京、43歳、1ヵ月）

「家族が仲良く健康で暮らせること、将来のための貯蓄」②

今までは自分のやりたいことを充実させたいと思っていたが、震災直後は警報がなるたびにビクビクしていた。それより家族が仲良く健康で暮らせることが大切だと思うようになった。貯蓄は将来のことを考えた。（東京、31歳、2歳11ヵ月）

「子ども、家族」①

震災のとき私は仕事、娘は保育園で離れていた。できるだけそばにいたいと思うようになった。保育園も職場の近くを選んだ。（宮城、36歳、3歳）

「子ども（+家族）と一緒に過ごす時間、親しい友人関係」④

震災直前に出産したので、震災がきっかけで考えが変わったというより、出産してからこう思うようになったという気がする。以前は自分の仕事のことも大切に考えていた。震災があって報道を見て、その気持ちはより強くなった気はするが……。 （埼玉、37歳、7ヵ月）

「子ども、家族」①

いざというとき子どもや家族を守るために、どうしたらよいか考えて、玄関に非常持ち出し袋を用意し、備蓄をするようになった。（静岡、34歳、6ヵ月）

「子ども、夫」①

震災の前は自分だけを守ればよかったけれど、子どもが震災の後で生まれたので、この子を守らなくてはと思う。「夫」をあげたのは、自分1人では不安で夫に支えて欲しいので、大切に思っているから。（茨城、20歳、2ヵ月）

「子ども・家族、普通の暮らし（自然）」①

震災で家族を失った人のインタビューを見て、後に残された人のつらさを感じた。原発事故後、水や空気、大地のありがたさを考えるようになった。震災前だったらもっと物質的なものを答えていたと思う。（茨城、30歳、1歳3ヵ月・2歳6ヵ月）

「娘・家族」②

今は仕事をやめて、いかに楽しく手早く家事をやるかを考えて動機を高めている。つまらないものにしてはいけないと思っているので…。(宮城、36歳、1歳1ヵ月)

「家族、近所付き合い」③

はい・いいえ、どちらもありません。阪神大震災を経験したので家族の大切さを痛感した。今回の震災で、ご近所の付き合いが大事だと思ったので、挨拶だけでもちゃんとしようと思った。(大阪、35歳、1ヵ月)

「家族、自分にかかわる人とのつながり」③

子どもが生まれたのが震災直後だったので、夫もちろん子どももそうだが、自分がつながっている人全部の人との関係を大事にしたいと、よりいっそう強く思った。(神奈川、30歳、6ヵ月)

まとめ

家族のつながりや助け合い、子どもの健康や笑顔など「人や人間関係」に関するものは、誰でも、どんなときでも、一番大切にしたいものなのだと思います。多くの方が普段からそう思っていたようですが、震災をきっかけに改めて気づいたり、思いを強くした人も少なくなかったようです。

お金、水、写真、防災グッズ、節約などの「具体的」なものは、震災を経験して「大切なもの」と認識した人が多かったようです。水や食べ物など、普段は何も気にせず使っているものが、いかに大切なものかを実感することができたのでしょうか。いつもは特に意識もしていない、自然や当たり前の日常が、どれだけたくさんの人やものに支えられて存在しているのかを、感じた人もいたようです。

相談員自身も、日々普通に暮らしていけること自体がとても貴重で大切なものであることを、改めて考えることのできたアンケートでした。

調査の概要

- 対象 : 「エンゼル110番」に電話をいただいた子育て中のママ105人
- 調査方法 : 電話による聞き取り調査
- 調査期間 : 平成23年9月30日～23年10月29日
- 対象者の属性 : 「母親の年齢」20代…29人、30代…66人、40代…9人、不明…1人
「子どもの年齢」6ヵ月未満…53人、1歳未満…33人、
2歳未満…16人、3歳以上…5人 (兄弟を含む)
「居住地」北海道…1人、東北…4人、関東…55人、
北陸・甲信越…4人、近畿・東海…29人、中国・四国…9人、
九州…1人、不明…2人